

令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	誰もが、障がい・年齢に関係なく「できることではなく、やりたいことを」
事業主体 (連絡先)	団体名：ユニバーサル・サポートすわ 連絡先：090-3558-4502 メール：yunisaposuwa@gmail.com
事業区分	6ア 特色ある観光地づくり 2 保健、医療、福祉の充実に関する事業
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	817,600円 (うち支援金：645,000円)

事業内容

1 「誰にでもやさしい観光地すわになるために」

高齢や障がいを理由に、外出や旅行を初めから無理だと諦めてしまい、「やりたい、出かけたがたい」気持ちに蓋をしまっている現状と、宿泊業・観光業者等の受け入れ側もハード・ソフトの対応を何をどうしているかわからず、悩み迷っている現状があった。高齢や障がいに関係なく『誰にでも優しい観光地すわ』になるために、ユニバーサルツーリズムに対する地域全体での意識の共有やおもてなし力を学び、観光地としての質の向上を図る両者の想いの実現のためのセミナー・勉強会を行った。

①「ウィズコロナ時代、今こそユニバーサルツーリズムで諏訪へ」6月

29日(水曜日)場所：すわっチャオ会議室 講師：office FUCHI ユニバーサルツーリズムアドバイザー 淵山知弘氏 内容：コロナ禍の今、すぐそこに迫る超高齢化社会の今、だからこそユニバーサルツーリズムの可能性を理解して、他所にはない観光地すわの魅力を作るきっかけとなった。

②『利用しやすくなるユニバーサルツーリズム』～親孝行温泉の可能性とは～ 11月30日(12/3は国際障害者デー)場所：ホテル紅や 講師：温泉エッセイスト 山崎まゆみ氏 内容：世界中の温泉を巡り、各メディアで発信。ご家族の介護経験から、日本の“バリアフリー温泉”の推進に力を入れ、関連の著書多数の講師より、先進温泉施設の“ハードとハート”を「明日から実践できるバリアフリー温泉」としてノウハウを学んだ。

③「今だから、“諏訪”だからこそのおもてなし力」とは」

時期：令和5年1月26日場所：RAKO 華乃井ホテル講師：人とホスピタリティ研究所代表・長野県信州おもてなし未来塾塾長 高野登氏 内容：NYのホテルを経て、元リッツ・カールトンホテル日本支社長の経験から、サービスを超えたおもてなしの本質を学んだ。

2.「ユニバーサル温泉勉強会」

令和4年10月25日 場所：RAKO 華乃井ホテル 参加：当事者、施設関係者、福祉関係者5名 内容：40代の障がい者のサポート。重度障がいの入浴方法を学んだ。令和5年2月5日 場所：朱白 貸切風呂 参加：当事者、ご家族、施設関係者、福祉関係者5名 内容：高齢者とご家族の同時入浴サポート方を学んだ。

令和5年2月19日 場所：ホテル紅や 貸切ユニバーサルスパ 参加：当事者、ご家族、施設関係者、福祉関係者5名

事業効果

上記1により

- ・マイクロツーリズムで、地元の魅力の再発見や、地域のヒト・モノ・コトと繋がりが、専門性を極めるために学んだ。
- ・コロナ禍において観光事業の転換期を迎えている今、ユニバーサルツーリズムに関心を持ち始めている観光関係事業者や自治体担当者が当事者を交えながら、先進地域の事例を専門家から学ぶ事で、悩みや疑問を解決して、まずは皆が自分ごとと捉えられるようになると、各職場や地域での意識向上につながった。
- ・本事業で各専門家と繋がることで、連携して継続したスキルアップも図れた。
- ・観光事業者のみではなく、様々な立場の人がユニバーサルツーリズムについて知り学ぶことで、面としての「誰にでも優しい観光地すわ」への意識が共有、向上された。
- ・コロナ禍において、新しい観光のあり方を先進地の取り組みについて詳しい講師から学ぶことで、一歩進んだ諏訪だからこそこのサービスやおもてなし作りのきっかけとなった。

上記2により

- ・身近な自分ごととして考える機会となり、受け入れ施設の役割を理解してもらえた
- ・諏訪地域が更に一歩進んだ“誰にも優しい観光地”になるきっかけとなり、諏訪の強みである温泉を、誰にでもより安心安全に楽しんでいただくためのノウハウを実践を通して知ることができた。

今後の取り組み

コロナ禍における新しい旅のスタイルとして、少人数・高齢者を含む3世代4世代での旅行客が増えてくる事。それに伴うユニバーサルツーリズムに対する知識の必要性を感じていた行政担当者や観光関係者が、具体的に学び動き始めた事で、施設改修や従業員のユニバーサル研修を積極的に行われるようになった。引き続き誰一人取り残すことのない観光地諏訪を目指し、継続的に多様な受け入れを行政と観光事業者とで連携して行きたい。



【ユニバーサル温泉勉強会】



【高野登氏とおもてなしの塾生】

【目標・ねらい】

- ①誰もが安心して楽しめる環境、人づくりと地域の連携
- ②多様性を尊重する共生社会
- ③持続可能な心のバリアフリー
- ④新しい生活様式に基づいた外出の創出

※自己評価【 A 】

【理由】

ユニバーサルツーリズムや心のバリアフリーに対して、行政担当者や観光関係者、地域住民の意識の変化が加速した。共生社会をよりよいものにしたい気持ちや理解が広がった。